佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

「相川の鉱山及び鉱山町」が重要文化的景観
西三川砂金山跡・大間地区・戸地地区が国史跡に

このほど、国の文化審議会は、「相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観」を重要文化的景観に選定、「西三川砂金山跡・大間地区・戸地地区」を国史跡佐渡金銀山遺跡に追加指定するよう、文部科学大臣に答申しました。

17世紀初頭、相川では急速に鉱山開発が進み、上町（かみまち）台地の尾根線上に幹線道路が敷かれ、沿道に大工町など職業別の町立てが行われました（した）。17世紀前半には、海岸沿いの下町（まち）で埋め立てを伴う町立てが行われ、上町と下町とをつなぐ段丘崖に石段等が整備されました。18世紀以降金銀の産出量が激減すると、上町等に散在していた鉱業関係施設は佐渡奉行所内に集約され、下町には蔵を伴う大規模な地割りの廻船問屋等がみられるようになりました。明治29（1896）年に鉱山が三菱へ払い下げられると、上町には間口が広く通りに面して庭を有する社宅が建設され、下町には役場等の公的機関が立地しました。このように、相川の文化的景観は、鉱山地区の生産機能、上町地区の居住・行政機能、下町地区の流通・行政機能が、金銀採掘の盛衰に関連しながら展開してきた歴史的変遷を示す重要な景観地であるといえます。

鉱山町の面影が残る文化的景観

虎丸山

また、追加指定となった西三川砂金山跡は、平安時代からの砂金採取の舞台と推定され、本格的な開発の始まった16世紀末から閉山する明治5（1872）年までの長期間にわたって採掘が行われた金銀山遺跡です。これまでの分布調査によって、虎丸山（とらまるやま）などの砂金採掘地のほか、砂金採掘に使用した水路跡や堤跡、石組遺構などの砂金採掘遺構が確認されており、豊富に残されている絵図・文献史料によって、一連の砂金採取システムの様子を知ることができる、特に重要な遺跡です。

大間港

相川の大間地区は、佐渡鉱山に必要な物資の搬入のため、明治25（1892）年に完成した港で、現在もコンクリート普及以前のたたき工法の護岸や、昭和10年代の鉱山大増産期に新設されたクレーン台座、ローダー橋脚等の遺構が現存しており、明治から昭和期の旧佐渡鉱山における生産物・物資の搬出入施設の変遷を示す重要な遺跡です。

さらに、戸地地区は、大正から昭和期に佐渡鉱山への電力供給のために設置された、戸地川第二発電所の建物及び周辺の敷地が平成22年2月に国史跡佐渡金銀山遺跡に追加されていますが、これまでの調査によって、当発電所の取水口跡や発電所への導水路跡等の施設が残されていることが判明したため、今回追加指定されたものです。

戸地川第二発電所

◆市役所世界遺産推進課（金井就業改善センター内）☎63―5136